

令和4年度第1回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和4年5月7日（土曜日） 午前10時から12時20分まで

テーマ：身近な植物を観察しよう

場 所：霞ヶ浦環境科学センター敷地内

案 内：小幡和男（霞ヶ浦環境科学センター）

担当職員：小幡和男、鈴木隆志、小川達己、久保谷秀明（4名）

参加者：24名

パートナー：6名

結 果： 時折小雨が降る天候でしたが、大きな障害とはならず無事に観察会を行うことができました。

まず、どんぐりのなる木の雄花・雌花を観察しました。落葉樹のクヌギとコナラの雄花はほとんど終わっていましたが、雌花をよく観察することができました。クヌギのどんぐりは成熟するのに2年かかるのに対しコナラは1年です。よって、クヌギの雌花は今年のものと同居していることとなります。虫めがねで見ないとわからない小さな花に皆さん熱心に見入っていました。常緑樹のシラカシの雄花・雌花も観察することができました。

続いて、アカマツの雄花・雌花の観察を行いました。マツの雌花は枝の先端につき、松ぼっくりのミニチュアのようなようです。そして、去年の枝には今年種子が成熟する若い松ぼっくり、2年前の枝には既に種子を飛ばして空になった松ぼっくりがついています。マツの花と種子のでき方を観察することができました。

似た者どうしの植物を観察しました。カラスノエンドウ・スズメノエンドウ・カスマグサの3種、オオイヌノフグリ・タチイヌノフグリの2種、ムラサキツメクサ・シロツメクサ・コメツブツメクサの3種、ハルジオン・ヒメジョオンの2種、コバンソウ・ヒメコバンソウの2種、ウワミズザクラ・イヌザクラの2種などを比較し

ながら微妙な違いや共通の特徴などを観察しました。

次に、雌雄が別株の植物を観察しました。草のスイバと木のマグワがその例です。

雄花・雌花の微妙な違いを観察することができました。

そして、この観察会の目玉は、センター敷地内に整備されたビオトープでの水草や湿地の植物の観察です。エビモ・ササバモなどの沈水植物、ジュンサイ・アサザ・ヒシなどの浮葉植物、ヨシ・ヒメガマ・サジオモダカなどの抽水植物など、生態や形態を観察しました。霞ヶ浦湖畔でこの季節に開花する絶滅危惧種ヤナギトラノオの黄色い花を観察することができました。

最後に、ウラシマソウの雄花・雌花の観察を行いました。花の季節は過ぎていましたが、しおれた雄花、実ができかけている雌花を観察しました。この植物の性転換のしくみや受粉の工夫について説明すると驚きの声が上がりました。

観察した植物：クヌギ、コナラ、シラカシ、アカマツ、ヤマツツジ、ブタナ、ハルジオン、ヒメジョオン、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、オオイヌノフグリ、タチヌノフグリ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、コメツブツメクサ、スイバ、アメリカフウロ、ハマナス、ナガミヒナゲシ、マグワ、ウワミズザクラ、イヌザクラ、エビモ、ササバモ、ジュンサイ、アサザ、ヒシ、オニバス、ジョウロウスゲ、サジオモダカ、マコモ、ヒメガマ、ヨシ、ヤナギトラノオ、ヒメコバンソウ、コバンソウ、ウラシマソウ、ショウブ

以上39種

第1回霞ヶ浦自然観察会



集合とオリエンテーション



クヌギの観察



アカマツの観察



オオイヌノフグリとタチイヌノフグリ



スイバの雄株・雌株



ウラシマソウの雄株・雌株



ビオトープの観察



黄色い花をつけたヤナギトラノオ